

平成30年度 自 己 評 価 表（最終評価案）

鳥取県立青谷高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	人づくり（キャリア教育の推進） － 自己肯定感を育み、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成 －	今年度の 重点目標	①学力の向上:授業改革、基礎学力の充実 ②進路の実現:進路意識の向上、進路体験の充実、進路指導の充実 ③社会人基礎力の育成:生活習慣の確立、学習・生活環境の整理・整頓、身だしなみ・挨拶の実践、人間力の育成、自己肯定感の育成、人間関係形成力の育成 ④地域連携の推進(社会参画力の育成):青谷学、課題探究の充実・実践、地域行事への参加、青谷小学校・中学校等地域との連携、広報活動の推進
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (1)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 学力の向上	(授業改革) ・タブレット端末等を活用した授業実践 ・生徒の学びへの意欲喚起 ・授業規律の向上	・タブレット端末を活用した授業を実施した教員は17名、授業回数は189回(1月末段階) ・授業規律は概ね良いが、授業に対する興味・関心、意欲が不足。	・多くの教員がタブレット端末等を用いた魅力ある授業づくりに取り組み、生徒の主体的学びにつながっている。 （タブレットを利用して授業を行う教員が60%以上、全生徒がタブレットを活用した授業を体験） （タブレット等を活用した授業の実施によって学習意欲が向上する生徒が60%以上）	・タブレット端末等を活用した公開授業を各教科で実施する。 ・タブレット端末活用の職員研修を実施する。	・各教科でタブレット端末等を活用した公開授業の実施を呼びかけた。(1月末段階で7教科で実施済) ・タブレット端末活用の職員研修は、5月17日に「超入門研修」、7月27日に「ICT職員研修」、12月10日に「ICT活用研修」を実施した。 ・今年度、タブレット端末を利用して授業を行った教員は67.9%(19人/28人)(1月末段階)。 ・今年度、タブレットを利用した授業を受けた生徒は100%。 ・iPadを活用した授業についての生徒アンケートで、意欲的に取り組めたと肯定的に回答した生徒は67.9%。 ・生徒との面談は定期的に実施した。 ・授業開始時の「本時の目標」の明示は、実施率が向上した。 ・各種検定の受験を各教科で推奨した。その結果、6月・1月の英検を校内で実施することができた。また、食物調理技術検定4級の合格率が上がった。(41%→64%) ・学校評価アンケート問14に「思う」と回答した生徒は13.8%(昨年度から増減なし)と少ない。	C	・来年度は、タブレット端末等を活用した公開授業をすべての教科で早い時期に計画的に実施する。 ・職員研修の内容を踏まえ、タブレットを利用して授業することに対するハードルが下げられるように、職員同士相談しやすい雰囲気を作る。 ・トラブルの多かったShared iPadを中止し、通常の端末として利用の便を図る。 ・生徒との面談を継続して取り組む。 ・授業開始時の「本時の目標」の明示を継続して取り組む。 ・継続して各種検定の受験の推奨に取り組む ・生徒の興味・関心を高めるよう、引き続き授業改善に努める。
	(基礎学力の充実) ・丁寧な学び直しの実施 ・家庭学習の定着	・基礎力診断テストのDゾーンの生徒の割合がは減少傾向にあるがまだ十分とは言えない。 ・自宅学習時間が少なく、授業の予習や復習をする習慣が定着していない。	・基礎学力の向上、定着がみられる。 （基礎力診断テストの各教科のDゾーンの生徒の割合が各年次で年度当初より5ポイント減少）	・国数英を中心に目標を設定(数値化)して学び直しに取り組む。 ・それぞれの教科、科目で家庭学習の課題に取り組ませ、提出点検を徹底する。	・基礎力診断テストは、1年次の3科総合・数学・英語、2年次の3科総合・国語・英語で、Dゾーンの生徒の割合を年度当初より5ポイント以上減少させるという目標を達成した。 ・「学び直し」は国数英の授業の中で、生徒に合った教材を工夫しながら取り組んだ。 ・各教科で宿題等を課して家庭学習時間が増加するよう取り組んだが、十分な成果が出ていない。 ・二学期期末考査期間中に行った自宅学習時間調査の結果、一日平均の学習時間は72.1分で、一学期期末考査期間中に行った結果より6.4分増加した。特に1・2年次は15分の増加であった。しかし、一日の学習時間が1時間未満の者の割合は50%を超えたままであった。 ・学校評価アンケート問12に「思う」と回答した生徒は9.1%(前年度から0.5ポイント減少)と少ない。	C	・基礎力診断テストの事後指導について検討する。 ・学び直しに継続して取り組み、より効果的な指導を模索する。 ・来年度設置の学校設定科目(数学基礎、英語基礎)を効果的に活用する。 ・各教科で宿題等を継続的に指導し、日々1時間の家庭学習をする習慣をつけさせる。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]

平成30年度 自 己 評 価 表（最終評価案）

鳥取県立青谷高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	人づくり（キャリア教育の推進） － 自己肯定感を育み、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成 －	今年度の 重点目標	①学力の向上:授業改革、基礎学力の充実 ②進路の実現:進路意識の向上、進路体験の充実、進路指導の充実 ③社会人基礎力の育成:生活習慣の確立、学習・生活環境の整理・整頓、身だしなみ・挨拶の実践、人間力の育成、自己肯定感の育成、人間関係形成力の育成 ④地域連携の推進(社会参画力の育成):青谷学、課題探究の充実・実践、地域行事への参加、青谷小学校・中学校等地域との連携、広報活動の推進
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (1)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
2. 進路の実現	(進路意識の向上) ・進路に関する各種講演会の実施 ・生徒面談の充実	・進路意識を向上させるための各種行事や講演会は数多く実施しているが、効果的なものになるように検討する必要がある。 ・定期的に面談を実施し、生徒の面談に対する評価は高まっている。	・生徒が将来のあるべき姿や進路についてしっかりと考え、その進路目標を実現するために学力や社会人基礎力を向上させる努力をしている。（学校評価アンケート問16で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上） ・生徒が面談を通じて将来の目標を明確化するとともに、日々の学校生活を改善している。	・各種進路行事が有機的に結びつき、生徒の成長につながるよう、3年間のスパンで効果的な進路指導の流れを検討し、確立させる。 ・入学当初や年度当初にキャリア教育の全体計画、年度計画を生徒に示し、自分のキャリアデザインを意識できるようにする。 ・各種進路行事の内容を充実させるとともに、事前事後の指導(アンケート、面談等)を充実させる。 ・面談時間を確保し、充実した面談を実施する。	・年度当初にキャリア教育の全体計画と年度計画を配布し説明することによって各自の取り組みを意識させたり、昨年までと行事の流れを変更したり新たな行事を実施したりして、進路指導が効果的になるよう取り組んだ。 ・進路関連行事については計画的に実施でき、生徒の意識高揚に寄与できた。 ・学校評価アンケート問16に「思う」と回答した生徒は41.8%(前年比－1.3ポイント)であったが、3年次生においては63.4%(前年比+32.4ポイント)と大きく増加した。 ・定期的に時間を確保し、担任を中心に面談指導を生徒全員にしっかりと行った。	C	・効果的な進路指導ができるよう、進路関連行事の配置の適切化に引き続き取り組む。 ・各行事の事前事後の指導をより一層充実させる。
	(進路体験の充実) ・オープンキャンパスやインターンシップの充実	・2年次生がサマーワークとしてオープンキャンパスやインターンシップに全員参加しているが、体験を進路意識の向上に結びつけていく必要がある。	・生徒がサマーワークの体験を通して進路目標を持ち、その目標実現に向けて努力している。	・サマーワークがより効果的なものとなるよう、組織的に取り組む校内体制を確立する。 ・生徒一人ひとりの将来の進路目標にマッチした企業でインターンシップができるよう配慮する。 ・事前事後の指導(アンケート、面談等)を充実する。	・サマーワークの指導については、進路部と実施年次である2年次団が連携して組織的に取り組むことができた。 ・インターンシップ参加者数は70名(昨年は37名)、参加率は80.5%(昨年は84.1%)、協力事業所数は49(昨年は32)。生徒が自分の進路目標にマッチしたインターンシップができるよう企業に依頼した。 ・事後指導として、各自のまとめを発表することにより皆の進路意識の高揚を図った。	B	・効果的な進路指導ができるよう、各行事を計画的に実施していくとともに、より効果的な指導を模索していく。 ・年度当初だけでなく、各行事や講演会ごとの事前指導でその目的や目標を再確認させ、取り組ませる。 ・事後指導の充実に継続して取り組む。 ・個別面談をより充実させる。特に、進路についての対話を図り、一層の意識高揚に努める。
	(進路指導の充実) ・生徒面談等による進路目標の明確化 ・進路実現のための学力育成	・進路希望未定者が各年次とも存在し、進路目標を持てるようにしていく必要がある。 ・進路実現のための十分な学力が定着していない生徒がいる。	・2年次末には自分の明確な進路目標を持っている。（進路希望未定の生徒が1年次末で10%未満、2年次末で0%） ・生徒一人ひとりが進路実現に向けて必要な学習活動(家庭学習、補習授業、校外模試等)に意欲的に取り組んでいる。	・定例の生徒面談の他、各種行事の事前事後の個別面談を実施する。 ・「学び直し」を徹底する。 ・進学希望者に対する進学補習や外部模試の受講・受験を奨励する。 ・定期的に家庭学習状況をチェックする。	・定例の面談を計画通り実施し、生徒の状況把握と意識啓発に繋がった。 ・1月末の進路希望調査において、進路希望未定の生徒は、1年次は14.1%、2年次は10.5%で、目標は達成できなかった。しかしながら、1年次は未定者が4月時点の35.3%(24人)から14.1%(9人)に減少した。進路学習や面談の効果が現れていると考えられる。 ・進学希望者に対して校外模試や補習授業を設定し実施した。2、3年次生については一定の参加があった。	C	・進路に関する情報を全教員が共有できるような仕組みを構築し、様々な場面で進路意識の啓発が行えるようにする。 ・進学希望者に対しては、積極的な補習授業や校外模試への参加を奨励する。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]

平成30年度 自 己 評 価 表（最終評価）

鳥取県立青谷高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	人づくり（キャリア教育の推進） － 自己肯定感を育み、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成－	今年度の 重点目標	①学力の向上:授業改革、基礎学力の充実 ②進路の実現:進路意識の向上、進路体験の充実、進路指導の充実 ③社会人基礎力の育成:生活習慣の確立、学習・生活環境の整理・整頓、身だしなみ・挨拶の実践、人間力の育成、自己肯定感の育成、人間関係形成力の育成 ④地域連携の推進(社会参画力の育成):青谷学、課題探究の充実・実践、地域行事への参加、青谷小学校・中学校等地域との連携、広報活動の推進
-------------------	---	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (1)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3. 社会人基礎力の育成	(生活習慣の確立) ・時間を守る(1日の日課表に沿った規則正しい学校生活の実現)	・遅刻者数が大幅に減少した。	・規則正しく学校生活を送ることができる。(学校評価アンケート問1で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上) ・入室許可書の累積枚数を5枚以下とする。 ・学校を中心に据えた行動意識が醸成され、学校生活のルールに基づいた生活習慣が定着している。(欠席率・遅刻率が2.00%未満) ・授業は開始前に準備し、授業に意欲的に取り組むことができている。 (学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上)	・保護者への連絡を密にする。 ・本人の気づきを促すため、こまめに現状(入室許可書発行回数)を把握させていく。 ・クラス担任、年次、教科担任、生徒指導部等が連携しながら個別指導を行なっていく。	・学校評価アンケート問1に「思う」と回答した生徒は35.1%(昨年度より+1.6ポイント) ・こまめに指導したが、入室許可書の累積枚数が6枚以上となった生徒が8人いた。 ・欠席率は2.67%、遅刻率は1.88%だった(1月末時点)。遅刻については全体としては目標をクリアしている(年次別では1年のみ目標をクリア)が、欠席については全年次が目標をクリアできず、全体で大幅に目標をオーバーしている。 ・授業は開始前に準備し、授業に意欲的に取り組むことができている生徒は増えている。 (学校評価アンケート問2に「思う」と回答した生徒は34.9%(昨年度より+3.6ポイント)	C	・出欠ボードでの情報共有を基本とし、その日のうちの指導を徹底する。 ・連続する欠席(3日間)は必ず保護者に確認を取り、対応を協議する。
	(学習・生活環境の整理・整頓) ・清掃励行 ・ロッカーの整理・整頓の徹底	・校舎内はきれいな状態が保たれているが、生徒の主体的取組としては不十分。 ・ゴミ分別は全体的にはまだ不十分。 ・ロッカーの整理・整頓については、まだ不十分な生徒もいる。 ・机上や床に私物を放置している生徒がいる。	・環境・美化意識が高まり、主体的に清掃活動に取り組む。 (学校評価アンケート問3で「思う」とする割合が5ポイント向上) ・身の周りの整理・整頓ができ、学習環境を整える習慣が定着している。 (学校評価アンケート問4で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上)	・風紀環境委員の活動の活性化等TEAS活動を充実させる。 ・学期終了時だけでなく、定期的に机やロッカー整理を行い私物の持ち帰りを徹底させる。	・環境・美化意識の高まりからくる主体的な清掃活動は少ないが、清掃分担に対する取り組み方は良くなっている。(学校評価アンケート問3に「思う」と回答した生徒は52.7%(昨年度より+1.7ポイント) ・個人ロッカーが全学年分新調されたことで、整理・整頓の意識が高まり、学習環境の整備につながっている生徒もいる。(学校評価アンケート問4に「思う」と回答した生徒は50.3%(昨年度より+1.8ポイント)	C	・日々の細かな声掛けを継続していく。 ・学期終了時だけでなく、考査期間やLHR等で計画的にロッカー整理を実施する。
	(身だしなみ・挨拶の実践) ・明るい笑顔で気持ちの良い挨拶の実践 ・丁寧な言葉遣いの実践 ・制服の正しい着こなしの向上	・自発的な挨拶が少ない。 ・TPOに合わせた言葉遣いができる生徒は多くはない。 ・制服の着こなしが大きく乱れた生徒は少なくなった。	・相手のことを思い、自発的に挨拶ができるようになる。 (学校評価アンケート問5で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上) ・TPOに応じた正しい言葉遣いができる。 (学校評価アンケート問6で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上) ・他者を意識し、身だしなみや行動を整えることができる。 (学校評価アンケート問7で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上)	・まずは教職員の方から元気よく挨拶をしていく。 ・生徒会執行部による定期的な挨拶運動を行なう。 ・分からない、出来ていない生徒に対しては、その場で理解させるように教職員が協力して指導する。 ・時を逃さず、タイムリーな指導を心がける。 ・あるべき姿を具体的に例示する。	・生徒会執行部が1年を通じて挨拶運動に取り組んだ。 ・朝の登校時には自発的な挨拶は少ないが、昼や放課後は多くの生徒が挨拶できている。(学校評価アンケート問5に「思う」と回答した生徒は33.2%(昨年度より+3.3ポイント) ・来校者に対するときや公式な場面では、意識して正しい言葉遣いを心掛ける生徒も見かけられるようになった。(学校評価アンケート問6に「思う」と回答した生徒は31.2%(昨年度より+4.3ポイント) ・他者との比較で、身だしなみや行動を整えることができる生徒は増えてきた。 (学校評価アンケート問7に「思う」と回答した生徒は67.2%(昨年度より+9.6ポイント)	C	・引き続き、生徒会執行部による朝の挨拶運動を行なう。 ・継続して指導していく。(時を逃さず)
	(人間力の育成) ・人権教育・特別支援教育・性教育・食育等の充実	・生徒が自らの生き方あり方を考える機会となるよう外部人財を活用した講演会やLHR等を多く実施。 ・特別支援教育等の職員研修を実施。	・生き方あり方に関わる講演会等によって、自らの進路や生き方に対する意識が高まっている。(学校評価アンケート問17「いろいろな講演会は進路や生き方を考えるのに役立っていますか」に「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上) ・多様性を理解・受容でき、自他ともに意見を尊重・相互理解していく力や、社会の一員として遵守すべき「公共心」や「規範意識」が身につけている。 ・学習や社会参加等への意欲、目的達成を目指して取り組む忍耐力、ありのままの自分自身を受け入れ、理想とする自己を実現するための力等が身につけている。	・可能なことはできるだけ生徒中心に取り組ませるように仕向ける。 ・外部人財を活用した講演会やLHRを充実させる。 ・職員研修を充実させる。 ・事前・事後指導を充実させる。 ・引き続き調査を実施し、分析・把握に努める。	・様々な場面において、生徒の活躍の場を設けることができた。 ・外部から多くの講師を招き、生き方あり方に関わる講演会やLHRなどを行ったが、学校評価アンケート問17に「思う」と答えた生徒は23.4%で、昨年度より少し減った。(-1.5ポイント) ・特別支援教育研修やQU研修、性教育研修などの職員研修を実施した。	C	・引き続き、職員研修に取り組む。 ・生徒にとって魅力ある講師や内容を検討し、講演会やLHRをさらに充実させる。
	(自己肯定感の育成) ・「褒める」活動の実践 ・生徒同士の認め合い	・「褒める」「褒められる」という経験をあまりしていない。 ・些細なことで人間関係のトラブルを起こしている。	・「褒める」ことで相手を尊敬し、「褒められる」ことで自分に自信を持つ。 ・互いを認め合う関係性の構築。	・職員研修を実施する。 ・学校生活の様々な場面で、生徒個々の良さを見つけ声掛けを行い、褒めることを習慣化する。 ・学校生活の様々な場面で、互いの「良いところ」を見つけようと努力することを喚起する。	・教育実践家の菊池省三氏を講師に招き、職員研修を実施した。 ・菊池省三氏の教育セミナー(菊池道場)に参加し、研鑽を積んだ教員もいた。 ・生徒を褒めることで、自己肯定感を高めるとともに他者を尊重できるようになるよう努めた。 ・橘こころ氏(ビリギャル小林さやかさんの母)を講師に招き、PTAの研修会を実施した。 ・「互いを認め合う」関係性の構築は難しく、人間関係で悩む生徒がいた。	C	・引き続き、職員の研修・研鑽を重ねる。
	(人間関係形成力の育成) ・部活動の活性化 ・ボランティア活動の推進	・昨年度の部活動加入率は70.0%(H29.5.1現在)で、1年次生の加入率が低かった。 ・生徒会活動に参加する生徒が、執行部を中心とした一部の生徒に限られている。 ・昨年度ボランティア活動に参加した生徒は全校生徒の1割弱であった。 ・青谷地域の行事「あおいち」に参加したが、本校生が主体となった取組ではなかったため、生徒が有用感や自己肯定感を実感するまでには至らなかった。	・部活加入生徒の満足度が高まる。 (学校評価アンケート問20で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上) ・全校生徒の5割以上がボランティアに参加している。 ・ボランティア活動を通じて有用感や自己肯定感を実感できている。 (ボランティア事後アンケートで肯定的回答が50%以上)	・生徒独自の活動とならないように顧問が協力して活動を支える。 ・各顧問が部活動に参加できるように業務軽減を図る。 ・各部で目標を設定する。 ・ボランティア情報の広報・掲示方法等を工夫する。 ・ボランティアに関するアンケートを実施して、状況分析を行なう。	・部顧問間の協力・分担については改善の兆しが見られた。 ・部員不足等の課題もあり満足度が今一つ高まらなかった。(学校評価アンケート問20に「思う」と回答した生徒は43.8%で、昨年度より－0.7ポイント) ・今年度、ボランティアに参加した生徒は157人(1年次67人、2年次82人、3年次8人)で、参加率は79.3%だった。 ・「あおいち」ボランティア活動に参加した生徒(2年次生)のうち、事後アンケートで、自己有用感や自己肯定感を実感できたかという質問に93.8%が肯定的に回答している。	C	・強化指定部(卓球部)を中心として、各部の活動状況を発信する。 ・ボランティア意識の啓発に引き続き取り組む。

平成30年度 自 己 評 価 表（最終評価案）

鳥取県立青谷高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	人づくり（キャリア教育の推進） － 自己肯定感を育み、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成 －	今年度の 重点目標	①学力の向上:授業改革、基礎学力の充実 ②進路の実現:進路意識の向上、進路体験の充実、進路指導の充実 ③社会人基礎力の育成:生活習慣の確立、学習・生活環境の整理・整頓、身だしなみ・挨拶の実践、人間力の育成、自己肯定感の育成、人間関係形成力の育成 ④地域連携の推進(社会参画力の育成):青谷学、課題探究の充実・実践、地域行事への参加、青谷小学校・中学校等地域との連携、広報活動の推進
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (1)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
4. 地域連携の推進 (社会参画力の育成)	(「青谷学」、「課題探究」の充実) ・地域への関心の高まり ・成果の発表 ・地域人財の活用	・青谷学をとおして、ジオパーク、上寺地遺跡、地域の街づくり等の関心が深まった。 ・青谷学において、お世話になった方を招待し、発表を行った。 ・社会人講師や地域の有識者による講演等を開催した。	・ジオパークを理解し、2年次ではジオパークの活用方法が考えられ、3年次ではその活用方法が実践されている。 ・課題探究と青谷学の合同の発表会が開催され、地域にも公開されている。 ・地域の学校への理解が深まり、さらなる協力が得られている。	・地域のみならず各分野に精通している人財の協力を得る。 ・「青谷総合支所だより」「あおこうだより」「PTA広報誌」を通じて本校への関心を高めるとともに、発表会のPRを行う。	・青谷高校活性化を支援する会で紹介された方々を新たに講師に加え、青谷学・課題探究の授業が充実した。 ・課題探究成果発表会を、青谷町総合支所の協力で総合支所の施設を借りて、地域の方を招いて実施した。 ・「青谷総合支所だより」「あおこうだより」「PTA広報誌(灯台)」で青谷学・課題探究の取組を紹介した。 ・課題探究事後アンケートで93％、青谷学あおいちボランティア事後アンケートで81％の生徒が地域への興味・関心が高まったと回答。	B	・地域との連携を継続して推進する。 ・地域への情報発信に継続して取り組む。
	(地域行事への参画・参加) ・生徒の地域行事への参加数増大 ・生徒の充実感・有用感の高まり ・地域からの生徒・学校への信頼・期待の高まり	・地域行事(あおいち)にボランティアとして10名参加した。	・地域行事に50％以上の生徒がボランティアとして参加し、地域からより大きな期待と信頼が得られている。 ・課題探究や青谷学での地域と連携した活動を通じて50％以上の生徒が有用感を実感し自己肯定感を高めている。	・「地域とシンクロやってみよう！」のスローガン掲示し、生徒の地域活動への参加意識を高める。 ・青谷学で、地域行事のボランティア活動への参加を推進するとともに社会人としてのルール・マナーを身に付けさせる。 ・課題探究で各グループが地域行事で実践発表を行う。 ・地域行事(あおいち)に青高のブースを出す。 ・地域活動参加後、事後アンケート(参加生徒及び地域の方)を実施する。	・ボランティアのときスローガンを印刷した名札を着用し参加した。 ・青谷学で地域行事のボランティア活動に94.3％(82/87)参加した。 ・課題探究の地域行事などでの実践発表は3グループは実施できたが、あとの5グループは実施できなかった。 ・事後アンケートでは生徒及び外部(地域の方)から肯定的評価を得た。 ・ボランティア活動時の「あいさつや丁寧な言葉づかい」については、外部100％、生徒99％が肯定的評価だった。 ・ボランティア活動を通じて「地域に貢献している、役に立っていると感じたか」については、外部100％、生徒94％が肯定的評価だった。	B	・もっとアピールできるようにスローガンをポロシャツにプリントし、それを着用して活動することも検討する。 ・ボランティアの生徒引率者を増やす。 ・悪天候等による日程の変更にも対応できるボランティア参加計画を立てる。 ・課題探究の実践発表の場として「青高マルシェ」を企画し、課題探究の全8テーマが一斉に発表する。 ・外部(地域)の方のアンケート回収数が少ないので、実施方法等を検討する。
	(地域との連携) ・青谷小学校・中学校、すすく保育園等との連携	・青谷小学校で英語の読み聞かせを実施した。 ・すすく保育園とは、土曜日のボランティアと保育実習で連携した。	・英語の読み聞かせの他、課題探究の成果発表等、地域の小学校・中学校との連携が取れている。	・課題探究で紙芝居やポスター等を作製し、青谷の良さを小学校でPRする。	・青谷小学校と連携して、陸上部の合同練習、健康教育出前講座(歯磨き指導)、英語絵本の読み聞かせなどを実施した。また、課題探究で、青谷小学校6年生とのコラボ授業を行った。 ・青谷中学校との連携は日程等の関係で実施できなかった。 ・すすく保育園ボランティアの参加者は、前期4人、後期14人と後期の参加者が3倍に増えたが、昨年10％増には至らなかった。 ・第1回青谷高校活性化を支援する会(8月開催)に本校職員が出席し、地域人材の新しい情報や実践活動の協力を得た。第2回の会は本校を会場に開催され、授業参観も実施し、連携を深めることができた。	C	・青谷中学校との連携を検討する。 ・授業の中で参加を呼び掛けるだけでなく、進路部、年次等と連携して呼び掛ける。
	・「青谷高校活性化を支援する会」、青谷町総合支所との連携	・「青谷高校活性化を支援する会」が2回開催され、青谷学の現状と課題探究での協力依頼をした。	・「青谷高校活性化を支援する会」で定期的な意見交換が行われ、地域で一層の協力が得られている。	・「青谷高校活性化を支援する会」に本校職員が出席し、本校の取り組みの報告をし、理解を深めるとともに地域人財の情報や実践活動の協力を得る。			
	(広報活動の推進) ・ホームページの充実と更新 ・中学生への情報発信 ・地域への情報発信	・HPが時宜を逃さず更新されている一方、一部古いデータが更新されていないところがある。 ・中学校に向けた、「あおこうだより1号」を発行した。 ・青谷町総合支所の支所だより本校の取り組みが掲載された。 ・マチコミメールを導入したが、年度途中の導入であったため登録率は53.0％だった。(1月末現在)	・HPは、古いデータが更新され、閲覧者がさらに見やすくして利用しやすいものになっている。 ・学校案内が、中学生の興味関心を高め、わかりやすく受け入れやすいものになっている。 ・「あおこうだより」が定期的に発行され、中学校関係者に本校の理解が深まっている。 ・「青谷町総合支所だより」を通して、地域に本校の取り組みが理解され、関心が高まっている。	・HP更新ができる職員の数を増やす。 ・学校案内・「あおこうだより」について、中学校関係者等の感想または意見を参考に更新する。 ・「青谷町総合支所だより」で、本校の魅力を地域に発信できるよう積極的に情報提供する。	・古いデータの更新は進んでいる。 ・HPのデザインを一新した。 ・各分掌の担当で更新できるようになったので、新しい情報をいち早く提供できた。 ・「学校案内」を刷新し、大きな反響があった。 ・「あおこうだより」は、3月に1回のペースで計4回(3月、6月、9月、12月)発行し、東・中部地区の各中学校に配布した。 ・PTA広報誌は計画通り4回発行した。 ・隔月で「青谷町総合支所だより」に情報を提供できた。	A	・HPが閲覧者がより見やすく利用しやすいものになるように継続して取り組む。 ・本校の教育活動に対する地域や保護者、中学生の理解が高まるよう、情報発信に継続して取り組む。

・地域

〔100％〕〔80％程度〕〔60％程度〕〔40％程度〕〔30％以下〕